

## レンタル建機を12ftコンテナで効率的に

㈱レンタルのニッケンはその名の通り、土木・建築・産業関連機械を中心とした約4,700種類、約115万点の商品をレンタルする企業だ。顧客の要望に合わせた自社商品の開発・製造・販売も行っている。機器のオペレーションやセーフティサービスも提供し、建設業界以外に製鉄、石油、鉄道等さまざまな業種へとレンタル事業を展開している。

レンタルのニッケン営業本部の五番一郎取締役常務執行役員は「当社のレンタル事業は単にモノを貸すだけでなく、お客様のニーズに応じて商品を開発したり、モノの動きを可視化したり、仕組みづくりまで考える『事(こと)貸し』へと進化しています。社会的ニーズも“所有から利用へ”と変化している。当社は『レ



五番常務

ンタルで循環型社会に貢献』することをテーマに『長期ビジョン2030』を策定。環境負荷の小さいレンタル事業を通じて持続可能な社会の実現、経済の発展に取り組んでいます」と説明する。

鉄道業界との取引もあり、汎用機械のレンタルの他、軌陸車——線路も走行できる車輪を付けたダンプや高所作業車など、作業効率を上げる商品を提供している。鉄道部の烈剛部長は「お客さまが機械を保有する事はコストがかかりますし、安全基準が変わればそれに合わせる必要もあります。今までは保有するのが常識でしたが、少子化・機械化・効率化・



熊本南営業所

データ化が進む社会で、レンタルでシンプルにできないかご提案していきたいと考えています」と話した。

### ワンストップサービスで輸送手配を効率化

レンタルのニッケンは全国に250以上の営業所を置き、顧客の要望に迅速に対応している。レンタル用の機械は、地域の特色に合わせたラインナップを揃えた営業所や集中管理を行うセンターの所属とし、基本的には地域内で運用している。しかし大型の建設プロジェクトの場合は一度に多くの建機を必要とするため、全国各地から集める。熊本県の大型プロジェクトでは、高所作業車だけでも600台に上った。同社西日本支社九州支店では熊本営業所近くにヤードを3カ所設け、関西を中心に北陸エリアからも建機をトラックで集めた。トラック確保にあたり複数の運送会社に依頼したという。建設工事が進み、現場で不要となった建機は、所属する営業所や次の利用先へ順次回送する。これまではほぼトラックで運んでいた。

五番常務は「九州支店ではトラックの手配が年々容易で



熊本駅の積替施設にトラックで持ち込んだ建機をコンテナに積み替える

はなくなっています。2024年問題やトラックドライバー不足を見据え、JR貨物九州北部支店にコンタクトをとり勉強会を始めました。以前北海道で短期的に鉄道輸送を利用したこともあり、115万点の商品を全国に配置するチャンネルの1つとして、お客さまに提案できると判断しました」と鉄道コンテナ利用開始の経緯を話した。

商品は計画的に運用されるため、リードタイムを確保しやすい。オーダーを受けた輸送の手配にあたっては、JR貨物の提案により全国通運㈱が元請けとなり、鉄道輸送に加え、短距離やコンテナに収まらない大型建機のトラック輸送までを手配するワンストップサービスの体制を整えた。2023年8月末から10月までの約2カ月間に高所作業車100台、台車400台の他、発電機やフォークリフトを輸送した。12ftコンテナには、高所作業車3~4台、台車なら42台入る。

烈剛部長は「広域で使えるようになるとそれだけ効率が上がり、余計に持つ必要はなくなります。今まで東と西、北と南でそれぞれ持っていたものが一つで良くなる可能性もある。商品が全国を横断してスムーズに動くというのは、会社としてメリットが大きい」と話した。



烈部長



隣接するコンテナホームに降ろす

烈部長は「JR貨物と全国通運からアドバイスやヒントをもらいながら、いろいろな場面、さまざまな方法で鉄道コンテナを使いたい。今までトラックの手配に手間がかかっていたので、ワンストップサービスは助かります。九州支店で全国通運九州支社へ直接連絡できる体制とし、利用方法を支店内に周知したので利用事例は増えています。成功例や失敗例を吸い上げ、ノウハウを共有して全社で水平展開するなど、鉄道利用を拡大する考えです」と述べた。

さらに九州支店では、各営業所と北九州にあるMM(ミニマジン)センター間を定期的に往復するトラックを一部鉄道に置き替えられないかと検討中だという。

五番常務は「レンタルとメンテナンスをいかに効率よく回転させるかが収益に大きな影響を与えます。当社のメンテナンス工場は17ありますが、法定点検以外に、貸し出す前や返ってきた商品のチェック・メンテナンスなどが必要であり、その点検作業を貨物駅構内でできれば利用頻度も上がるかもかもしれません」と展望を語った。

### 大型プロジェクトで集約した建機を鉄道で回送

熊本のプロジェクトでは、主に建設現場に近い熊本駅を利用した。熊本通運㈱の集配トラックが各ヤードからコンテナで集貨する他、熊本駅構内の積替施設へ直接トラックで持ち込み、コンテナに積み替えるパターンも取り入れた。熊本で使用された大量の建機は一部九州各地の建設現場へレンタルされる場合もあり、使用後は順次最寄りの貨物駅から鉄道コンテナで回送している。



左から全国通運九州支社 今村次長 JR貨物 木元さん レンタルのニッケン九州支店 前進課長 雷マネージャー 熊本通運 榎木さん



ヤードで高所作業車をコンテナに積み込む

熊本駅に向かう熊本通運の集配トラック